

神戸新聞  
14.6.14

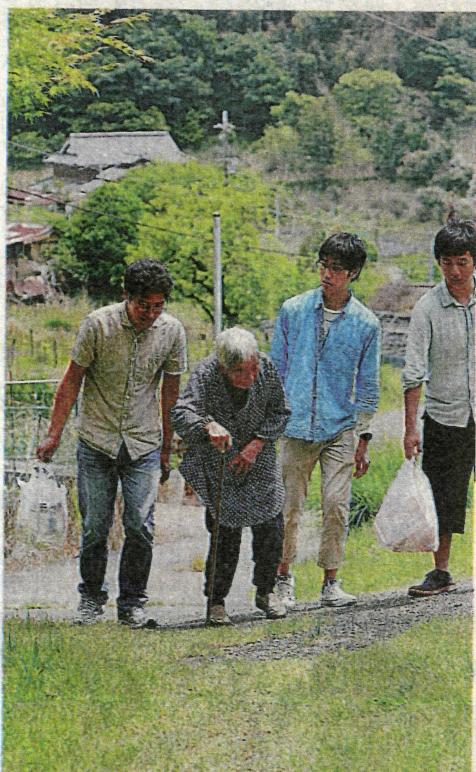


集落で店舗を構える移動スーパー。お年寄りが数日分の食料を買い求めた。(兵庫県上郡町大富)(いずれも撮影・大森武)

関西福祉大(赤穂市)の学生が、軽ワゴン車で兵庫県上郡町の山間部の過疎集落を回る「移動スーパー」を運行している。住民は月2回、若者と交流しながら買い物をすることを心待ちにし、「なくてはならない生活の一部」との声が上がる。7月で開始から1年。参加する学生たちは「地域の生活を支えている」との手応えを感じ、活動を続ける。(杉山雅崇)

### 上郡町で関西福祉大

同大社会福祉学部の溝端剛教授(58)のゼミ生19人が、県の助成を得て活動する。巡回するのは上郡町の山あいに点在する計4集落。同町中心部のスーパーで生活雑貨や食料品を購入し、そのままの値段で販売する。5年前、溝端教授が同町社会



坂道を上るお年寄り。学生が買い物袋を持って寄り添う=兵庫県上郡町岩木

### 雑貨や食料 買値で販売

福祉協議会から過疎集落の意識調査を委託された。「慣れ親しんだ愛着ある土地に長く暮らしたい」。困難を抱えつても、山村の生活に愛着を持つ人々の思いに応えるため、ゼミ生と話し合って運行を始めた。町の中心部から約25分、曲がりくねった山道の先にある暫居地区の富満集落にワゴン車「トライアンクル号」が到着すると、住民らが続々と集まる。この日参加した学生は4人。車外に設置した机にパンや調味料などを手早く並べる。「おばあちゃん元気にしてた?」「元気だよ。最近暑いね」。顔なじみになったお年寄りとの会話が弾む。自宅から約2時間かけて歩い

て来る田渕どしえさん(90)は、「買い物が楽しみ。ほんと感謝感謝や」と、牛乳を片手に学生たちに笑顔で語り掛ける。

は、坂の上の住居まで学生が荷物を持って付き添う。訪問を重ねるたびに、信頼関係が築かれていいく。

同大2年の木南向平さん(20)は、「お年寄りの笑顔を見ると、また来ようという気持ちになります。これからも続けたい」。溝端教授は「10~20年後にはこのような集落が各地にできる。それを支える仕組みを生み出していければ」と話している。

### 限界集落支えるモデルに

# 過疎地を巡る 学生スーパー

わいど  
&  
ズーム

複写はご遠慮ください。